

## 第1回 那賀川流域治水協議会 議事概要

1. 日時：令和2年8月7日(金) 10:00～10:40

2. 場所：阿南市役所 3階 303会議室

### 3. 協議会構成員

阿南市 市長 表原 立磨

小松島市 市長 中山 俊雄

那賀町 町長 坂口 博文

徳島県 県土整備部長

貫名 功二（代理：県土整備部次長 榎本 茂樹）

徳島県 南部総合県民局県土整備部長

正木 昇

四国地方整備局 那賀川河川事務所長

山本 卓男

徳島県企業局 施設基盤整備室長

生田 浩二（オブザーバー）

四国電力（株） 徳島支店技術部次長

八嶋 和幸（オブザーバー）

### 4. 配付資料

次第

（資料1） 設立趣旨

（資料2） 規約（案）

（資料3） 協議会での検討事項と今後の進め方（案）

（参考資料） 流域治水関係資料（流域治水プロジェクト概要、対策事例）

（情報提供） 7月豪雨の現況（7/31時点の浸水・土砂災害・TEC-FORCE活動の状況）

### 5. 議事

1) 流域治水協議会の設立趣旨および「流域治水」の考え方、那賀川流域治水プロジェクト公表に向けた今後の協議会スケジュール、那賀川流域治水プロジェクトの素案および他河川での自治体取り組み事例等について情報共有を図った。

2) 協議会員からの意見等

### 6. 主な意見

1) 那賀町

・国や県など複数機関の間で締結された那賀川水系治水協定は、自治体や機関単体では管轄や制度の中でこれだけしかできないという制限が大きく、各流域に事情がある中、関係機関が協働する上で非常に大きい意味を持っていると思う。

2) 小松島市

・徳島県全体で川が多く本市においても勝浦川など複数の川がある中で、本協議会を契機に徳島市西部なども含めてあらゆる流域での流域治水について考えていければよいと思う。

・平成26年台風11号の際の想定および対応の適切性や、今後の無堤地区の解消などの課題が山

積しており、小松島も勝浦川無堤地区や浸食対策などがある中、那賀川流域関係についても、この1年で確実に段階を進めるように議論していきたい。

### 3) 阿南市

- ・平成 26 年の災害時から施設整備や管理は向上したと思うが、ハード・ソフト両面でまだ課題は多く、先が長いことを実感している。会議での検討やプロジェクトの策定・公表が必要であり、今後の事業推進および国の予算確保に向けて、本会議をしっかりとしたバックボーンにしていきたい。
- ・堤防の漏水等の重要水防箇所やコロナ禍の中での避難方法に対する市民不安の解消や、内水の問題にも本プロジェクトが寄与すればと思う。
- ・資料の中にあつた土地開発の許可制度の導入等も今後考えていく必要があると感じている。

### 4) 徳島県県土整備部

- ・河川管理者として、那賀川水系河川整備計画に基づいて国と役割分担しながらハード・ソフト両面からの対策を進めているが、流域治水という考え方は、その対策を一段と上積みするものと考えており、今後、市町と連携・協力しながら、実効性のある流域治水プロジェクトを策定できればと考えている。

### 5) 徳島県南部総合県民局

- ・例年全国各地で大きな災害が発生する中で、これまでも国と県で施設整備に取り組んできてはいるが、施設だけでは十分でない部分もあり、流域全体で治水について考えていくことが重要。よりよい流域治水プロジェクトになるように各自治体・機関と協議しながら進めていきたい。

### 6) 徳島県企業局

- ・那賀川流域治水協定で川口ダムの事前放流等により微力ながら流域全体の治水に協力していきたい。今後は事前放流の降雨予測精度の向上の課題も含め、本会議での議論を進めていきたい。

### 7) 四国電力

- ・当社のダムは、もともと治水機能を持たない発電専用ダムではあるが、防災対策としての事前放流に協力していく。那賀川流域治水協定として枠組みは出来たが、今後内容を詰めていく必要があり、各機関と情報共有しながら進めていきたい。

### 8) 那賀川河川事務所

- ・全国的な取り組みや動きといった情報提供はもちろんであるが、交付金制度や補助金制度といった資金の情報も提供し、支援したい。各関係機関と協力して本プロジェクトを進めたい。

## 7. 結果等

- ・規約の制定、今後の進め方について了承。

## 8. その他

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、出席者を最小限にし、関係者限定で YouTube にて配信を実施。

以上